

---

# 白い恋人

ヤストシ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白い恋人

### 【NZコード】

N7124P

### 【作者名】

ヤストシ

### 【あらすじ】

サトシと別れてから年月がたったクリスマスが今年もやってきた。だがカスミは誰もいない空間で、独りクリスマスを過ごす事に・・・。けど、そんな寂しさと悲しさを抱えていた彼女に奇跡が起きる。それは、カスミとサトシのクリスマス短編小説である。

(前書き)

今回は、サトカスのクリスマス小説をお送りします。

クリスマスに必ず起きる恋の奇跡。

そんな時1人の男性がピアノを弾いていた。

『夜に向かつて 雪が降り積もると、悲しみがそつと胸に こみ上げる。涙で心の灯を消して 通り過ぎてゆく 季節を見ていた。外はため息さえ 凍りついて 冬枯れの街路樹に 風が泣く、あの赤レンガの停車場で 一度と帰らない 誰かを待つてる』

男性は、ピアノを弾きながら歌っていた。そしてこの歌詞どおりに今年のクリスマスに奇跡が起きる。

ここハナダジム。そしてジムリーダーカスミは恋をしていた。相手の好きな男の子は、イッシュ地方にいるため会うことは、簡単にはできない。しかも彼と最後にクリスマスを過ごしたのはジョウトリー格開幕直前であった。そしてそれ以降クリスマスは、カスミと姉達で過ごしていた。

ところが・・・

カスミ「えええええ！？みんなどうつか出かけちゃうのー！？」

サクラ「そうなのよ。ポケモン大好きクラブのクリスマススペシャル番組出演のために出かけなければ行けないから・・・」

カスミ「だからあたしが留守番つて言うのー！？」

アヤメ「しようがないわよ。招待状はあたし達三人だけしか貰つてないんだから・・・」

ボタン「ま、出がらしはお留守番お願いねえー！」

カスミ「誰が出がらしよ、誰があー！？」

サクラ「ごめんね、カスミ。帰りにクリスマスプレゼントのお土産でも買いに来るから、その時までお留守番お願いねえー！」

アヤメ「じゃ、あたし達もう行くからーもう直ぐバスが来る時間だから！」

ボタン「お留守番頬んだわよおー！」

三姉妹達は、そのまま力スミを置いて、

三姉妹達は、そのままカスミを置いて、出かけてしまつた。にも寂しさに落ち込むカスミは、そのまま床に座り込んだ。余り

カスミ「そんなあ～・・・聞いてないよお～・・・。今年もクリス

マスパー テイショウと思つたのに。。。

レーレーレーレーレー

カスミ「しようがないわ。外に出かけましょ」

そういうつて外出するカスミ。しかし彼女の胸の中では悲しみと涙でいっぱいであつたがそれらをこらえていた。

カスミ「サトシ・・・」

そう悲しい顔をしながら歩いていた時ある歌が聞こえてきた。

今宵 痴こられて奏てる 愛の Serenade 今も忘れない  
恋の歌。雪よ もう一度だけ このときめきを Caledra  
te、ひとり 泣き濡れた夜に White Love。聖なる鐘  
の音が 韶く頃に 最果ての街並みを 夢に見る。天使が空から降  
りて来て 春が来る前に 微笑をくれた Wooo···』

を力スミに渡す。

カスミ「なんですかこれ？」

いた

家には、誰もいない。いるのは、カスミのポケモンたちだけ。カス

ミは、ベットに乗り、横になるとみんな心配そうにカスミの前に集まってきた。

カスミ「みんな・・・」

カスミは、少し寂しさがやらわいだ。その時あの男性の歌が聞こえてきた。

『心 折れないように 負けないよう』 Loneliness  
白い恋人が待つて いる。だから夢と希望を 胸に抱いて For  
verness。辛い毎日が やがて White Love』  
そしてピアノからギターの音がカスミの耳に聞こえてくる。すると  
その時便せんが突然光そのまぶしさのあまり目をつぶってしまうカ  
スミ。

カスミ「何なのこの光は?」

そういうつて光が収まつたときカスミとカスミのポケモンたちはいな  
くなつて いた。

カスミ「こには・・・」

カスミは、目を覚ますとそこはカスミの部屋ではなく街中でしかも  
古い倉庫が並んだ雪の中にいた。

カスミ「何が起つたの?こには、どこのよ~」

カスミは、知らぬ間に違う場所にしかも知らないところにいて混乱  
していた。

すると、後ろを振り向くとルリリ、スター、サニーゴ、カスリン  
(ラップカス)、コダックがいた。

カスミ「みんな大丈夫?」

カスミは、ポケモンたちに尋ねるとみんな平氣だよという顔をする。  
その時また歌が聞こえてくる。

『今宵 泣こらえて奏でる 愛の Serenade 今も忘れない  
恋の歌。せめて もう一度だけ このは出発を Celebrat  
e』

カスミは、歌が聞こえるほうへ歩いて行くと帽子を被つて肩にピカ  
チュウを乗せた男の子がいた。

カスミ「サ、サトシ・・・」

そうつぶやくカスミ。

するとカスミのつぶやく声が聞こえたのか？少年とピカチュウに向かって、

少年力大又三！？」

ガスミ・サトシ

カスミは走りながらセトジは抱き合って

רְאֵתִי בְּבָבִילוֹן וְבְבָבִילוֹן  
רְאֵתִי בְּבָבִילוֹן וְבְבָבִילוֹן

卷之三

カスミは、涙を流しながらサトシに言う。

サトシ カスミ・・・俺も・・・俺も会いたかったぜ」

カヌミ「カナ……」

カスミが何か言おうとしたときサトシは、カスミの脣にキスをする。

カニ」「カニ!。俺、今度の一件が子供だ!

恋愛に鈍感なサトシからこきなりの告白。

和モサレバシガ好ミテラ。

「アーティストとして最高のクリエイタービジョン」

そんな一人を遠くから見つめる目が一つあった。

卷之二

「まあまあ。それにしてサトシに好きな子がいたとは、僕も驚い

九月

「アイリスたら」

一人を見つめていたのは、サトシとともに施をしでいるアーリアと

卷之三

「デント」「まあまあ。今日は、ホワイトクリス」

こうしてサトシが好きな子に告白とキスも見られたし「  
アイリス「そうね～。いいもの見られたしね」  
笑いながら言うアイリス。

二人は、確かに今とても幸せであった。

そして雪が降りながらあの歌が聞こえてくる。

『ひとり 泣き濡れた 冬に White Love、Ah, a  
h, 永遠の White Love My Love、ただ逢い  
たくて もう せつなくて 恋しくて・・・涙』

(後書き)

サトシがシッポウジムに挑戦直前を設定としたクリスマス小説どうでしたでしょうか？ちなみにこの歌は、桑田佳祐さんが歌った白い恋人達です。またこの白い恋人達を聞いてこの小説を思いつきました。それでは、皆さん私の小説をこれからもよろしくお願ひします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7124p/>

---

白い恋人

2010年12月30日19時33分発行